

学校図書館部会報 No. 32

— 部会総会報告号 —

発行日：2009年6月14日

発行者：日本図書館協会 学校図書館部会（部会長：高橋恵美子）

連絡先：〒229-1123 神奈川県相模原市上溝6-5-1 神奈川県立上溝高等学校図書館

Tel.042-762-0008（代）／042-762-0253（直通） E-Mail：gakutobukai@jla.or.jp

目 次	ページ
1. 学習会報告	
学習会『職員制度について』をおこないました	1
2. 学校図書館部会総会報告	
2-1. 部会長あいさつ	2
2-2. 事務局長あいさつ	2
2-3. 議長団選出	3
2-4. 定足数の確認	3
2-5. 2008年度事業報告	3
2-6. 2008年度決算報告、監査報告	3
2-7. 2009年度事業計画	3
2-8. 2009年度予算	3
2-9. 欠員幹事の補充選任	4
2-10. その他の意見および情報交換	4
3. 当日配布資料	
4. 会員の広場	
・「学校基本調査」に見る司書教諭発令数の変化について	5
・「学校基本調査」に見る学校図書館事務員等（学校司書）の配置数の変化について	6
・ほんとうの図書館を書く	11
・ほんとうの図書館	12
・今年のアオリエンテーション	13
・学校図書館を変える図書館管理システムとは	14
・神奈川県産、10年もの；新米司書を育てる6つのレッスン	16
5. 新 幹事の紹介	19
5-1. 32期役員一覧表	
集会案内	20
6. 幹事会からのお知らせ	21
別刷り 夏季研究集会東京大会要項（振込用紙記入の注意）、振込取扱票	

1. 学習会報告

学習会『職員制度について』を行いました

学校図書館部会幹事会

今年度は、総会の前(5月23日11時から12時30分)に、『職員制度について』の学習会の時間を設定した。

今回の学習会の主旨は、J L A 学校図書館問題プロジェクト・チームの報告『学校図書館専門職員の整備・充実に向けて』(1999年3月29日)を改めて読み直して、現段階でのJ L Aとしての基本的な考え方をお互いに認識することと、当時の議論を振り返りながら、今後について考えることであった。なお、同報告は、前回の部会報に同封して部会員の皆さんにもお配りしたものである。

まず、J L A 学校図書館問題プロジェクト・チームの委員であった後藤暢氏に、同報告の概要やプロジェクト・チームでの議論の様子などをお話頂いた。後藤氏のお話は、報告の内容に沿っての説明のほか、関連する話題や、学校図書館法(以下、学図法)制定当時の構想のこと、1996年～1997年の学図法改定の前後の学校図書館をめぐる状況、いわゆる専門職制度というものについての考え方など、幅広い内容のものであった。また、同プロジェクト・チーム報告について、

- ・ 法律が現に変えられ、2003年には司書教諭の発令がはじまるという状況での、現実対応を第一に考えてまとめたこと、そのため、司書と司書教諭の協調を重視するものとなったこと。
- ・ 必要最小限のことだけを取り上げてまとめたこと。逆の言い方をすれば、ここでまとめていない様々な課題は先送りになっていること(例えば、読書教育、図書館の自由と学校図書館、職員問題や専門職員制度など)。
- ・ このプロジェクトの活動をとおして、他館種の人にも、多少なりとも学校図書館のことを知ってもらえたことに意義があったこと。なども指摘された。

当時プロジェクト・チーム委員であった高橋部会長からも、当時の議論の様子についての補足説明に加え、当時と状況が変化しているものの、報告は専任・専門の職員を置くことを重視しており、学図部会としてはこの報告をもとに

取りくんでいかざるをえないという発言があった。

その後参加者からも自由に発言を頂いた。5名から、「学校司書制度が危うい。充て司書教諭の専任化ではなく、学校司書の法制化を目指すべき」「鳥取の例をモデルケースと考えて運動するのはどうか」「組合で「専任司書教諭制度」を追求してきたが、高校の学校司書が先導してきて、小中の先生には十分理解されていない。図書館担当の先生の専任化と思われる。小中の学校司書に聞くと、専任・専門・正規が要望。教育職に位置づけるべきという意見は、管理的な締め付けの中で事務系では十分な図書館活動ができないからだったが、教員そのものが管理的な締め付けにさらされており、これも難しいのではないか」「司書は、垣根を低くして多くの生徒が入りやすい図書館をつくり、良いサービスをとおして図書館の機能を伝えることが大事」「今高校で司書教諭を引き受けている人は、学校司書の配置が前提。学校司書がいなくなったら、引き受けたがらないだろう。とても、学校司書にかわって図書館の維持運営に責任を持つという感じではない。学校司書制度がなくなったら、図書館のことに責任を持つ人が誰もいなくなる」などの意見があった(意見はまとめてあります。必ずしも、個々の発言者の発言のとおりではありません)。今回の学習会は短い時間での開催であり、参加者の発言の時間を十分に確保できなかったのは申し訳ないことであった。

1997年に学校図書館法が改定され、2003年から充て職の司書教諭の発令が行われるようになって6年を経過している。学校司書制度については、非正規職員化などきわめて深刻な事態がある一方で、市区町村の自治体レベルでは、非正規ながら学校司書の配置が進むなど、その必要性についての理解はそれなりに広まりつつある。学校図書館部会としては、今後も、学校図書館に専任・専門・正規の職員を配置するための取りくみを随時行いたいと考えている。部会員の皆さんにも、適宜ご参加ご協力を願いたい。

2. 学校図書館部会総会報告

2009. 5. 23 午後2時から4時
日本図書館協会 2階 研修室

2-1. 部会長挨拶

2期目に入りまして、あらためて2年間を勤めて行きたいと思っています。総会は例年参加される方が多くないので、夏季研にあらためて活動報告や情勢分析はお話しますが、今日は人数が少ないことで逆に、フラットに意見が言い合えたらいいなと思っています。

2-2. 事務局長挨拶

事務局長挨拶

遠いところからおいでいただいた方もたくさんいらっしゃいます。ありがとうございます。

子どもとしてうれしく思うことは、学校図書館部会の会員は2005年から増え続けており、現在463名です。一時期は500名を超えていたこともありましたが、他の部会が減っている中では唯一増えている。これは皆さんたちの活動の成果であるとともに、学校図書館の問題が社会的な関心事になっている現われであると思います。住民の関心が向いてきているといえます。政府としても、サポーターズ会議がレポートを出し、大量のパンフレットを出したこともその現れだと思えます。

しかし常務理事会が提案している経過報告には、学校図書館に関わる問題にほとんどふれておりません。残念ながらJLAとして学校図書館に関する活動が十分ではないと言わざるを得ません。今後の活動内容を豊かなものにするためにも、各地での実践を総会場で出していただきたいと思えます。

現在、職員の専門性と雇用の問題が重要課題となっています。経過報告には図書館員の雇用問題をとりあげました。公共図書館では全職員の6割が非正規職員です。大学図書館では昔から問題になっていて、派遣が多い職場でした。学校図書館も同様ですが、その状況が十分把握できていません。

サポーターズ会議はパンフレットのなかで「学校司書」の用語を使い話題になりました。非常に積極的な意味がありますが、



学校図書館で働いている人をすべて、この用語により捉えてよいのか、との意見もあります。専門資格もなく、その蓄積が保障されない雇用不安定な実状にある人が圧倒的に多いなか、あたかも専門性がある職種であるかのような誤解を招きます。専門性と雇用の問題を学校図書館でもあきらかにしていかなければいけないと思えます。

総務省は任期付き短時間勤務職員制度の検討を行っていますが、その研究会報告書では、司書の業務について、経験を必要として終了期のない例としてあげています。臨時的な職としながらも長い間雇用する実態がありますが、それを糊塗するかのような報告書です。専門性を要し終了期を予定しない職種であっても任期付きで短時間であればよいとするのは、あきらかに正規雇用を減らすための便法だと思えます。そうは言っても、非正規の図書館員が増えている現在、この制度について調査研究しないわけにはいかないと思えます。活用できる側面はないか、ぜひ部会でも検討して欲しいと思えます。

この報告書では、図書館業務については「事務系の窓口業務」としています。図書館業務内容を正しくみていません。図書館業務を正確に表す職務内容や職務形態を追求しなければいけないと思えます。この報告書の実例の中には学校図書館の例も挙げられています。

もう一つの問題に資料費があります。文部科学省の地方教育費調査では、学校にお

ける図書購入費が 2000 年以降減っていることを明らかにしています。小中学校でも急激減り続け、地方交付税措置を始めた 1994 年度の水準に戻ろうとしています。高校でも 50 億円あったのが、2006 年には 30 億円となっています。こういった実状を訴え、改善の取組みをすべきだろうと思っています。

そのために、教育振興基本計画に図書館の課題を採り上げ、その改善に資するような策定を図書館員として進めていくことを求めたいと思います。

2-3. 議長団選出

二宮さん（兵庫県）、亀田さん（神奈川県）

2-4. 定足数の確認

委任状 134 通、出席者数 19 名

2-5. 2008 年事業報告

J L A 総会資料を参照して下さい。

2-5-1. 質疑および意見

（兵庫県）Q. S L A に挨拶に行ったとのことだが、どうだったか。

A. S L A とは挨拶という扱いで、記録に残すことはしていない。小中学校図書館の変化、サポーターズ会議などについて意見を交換した。

（兵庫県）Q. 学校図書館問題研究会との懇談はどうだったか。

（学校図書館問題研究会副代表）・学校図書館問題研究会も J L A 理事会が始まる前にご挨拶をした。そこでは、いくつもの指摘をいただいた。調査が弱いのではないか。文部科学省の調査で落ちているところを J L A 学校図書館部会と共同で行ってはどうか。集会を J L A と共同開催してはどうか、学校図書館問題研究会では地域住民との協働が弱いのではないかという指摘があった。

（埼玉県）・サポーターズ会議の提案を受けて文科省が初めて「学校司書」という言葉を使ったが、学校司書といってもいろいろな形の雇用形態がある。

1 月 14 日の常務理事会報告にもあるが、学校司書の中に非正規職員派遣や外部委託が増えることが予想される

が、文科省が今まで言ってきた「学校図書館事務職員」という言葉ではこの人達は含まれない。学校司書ということで全部を包み込み、学校図書館は充実していると言おうとしているのではないか。「学校司書」と呼ぶようになったことは評価しながら、問題を含んでいることは認識しておく必要がある。今後はいろいろな場面で、意識して専任正規雇用の学校司書である必要があることを主張することにより、サポーターズ会議の提案が生きてくるのではないか。

（東京都）・サポーターズ会議のアクションの結果をこだわっていくべきだと思っている。J L A が出した教育委員会への要望書を東京都の教育委員会にも出して欲しい。

（大阪府）・大坂府立高校では（3 月に日正規職員の雇い止めが実施され、また）、今年度から実習助手は教科に所属することになった。1 校 3 名のため、理科 2 名と家庭科 1 名とに振り分けられた。4 人残っているところは一人が図書館を運営しているが、3 人になったところは、時間毎かあるいは学期で順に担当するかどうか、学校によって状況がバラバラ。

今後、学校図書館に人を置くという場合は別の採用形態で入れるしかなくなった。

実践を府民に知らせる働きかけをしてゆくことになった。

（長野県）・長野県は図書館の必要性は一定程度認めているが、職員制度については退職不補充でいき、その後は他の職員形態でとされているので、交渉中である。

2-6. 2008 年決算・監査報告

承認。

J L A 総会資料を参照して下さい。

2-7. 2009 年事業計画

理事会・評議員会で承認済み、部会報 31 号を参照して下さい。

全国大会分科会への学校図書館部会の関わり方の流れを説明。

2-8. 2009 年予算

承認。

（埼玉県）Q. 学校図書館部会員における

司書教諭の割合は？部会報はHPに掲載するだけにしてはどうか。今後も発行を続けるのか。

A. 司書教諭の割合はわからない。部会報をHPだけにするのは時期尚早であると考えているので、今年度は3回発行を予定している。今後のことは幹事会で考えてゆく。

(兵庫県)・ブロック集会の開催地をほかの地域によびかけてはどうか。

(神奈川県)・文部科学省「子ども読書サポーターズ会議」の広報リーフレットの活用方法を考えるべき。教員が集まる集会で配ってはどうか。

(山口県)・文部科学省がリーフレットを増刷する予定がなくても、問い合わせてみては。市民も注目していることを知らせる意味で。

2-9. 欠員幹事の補充選任

承認。

届け出順。

松井正英 (長野県下諏訪向陽高等学校 司書)

山本恵美子 (島根県立出雲商業高校 学校司書専門員)

太田克子 (群馬県立高崎商業高等学校 司書)

2-10. その他の意見および情報交換

(埼玉県) Q. 職員実態調査はどの範囲まで考えているか

A. 幹事会では小中学校全校は無理だろうから、高校からはじめようと話している。

(神奈川県)・司書教諭講習で使われているテキストが実態からかけ離れている。「図書館雑誌」5月号で岡山県の永井さんが書かれていたように、研究者の委員会などとの交流をはかってはどうか。

(長野県)・自由の委員会で話題になっているが、図書館の自由について司書教諭講習の中でとりあげてもらうように図書館教育部会に働きかけ、「学校図書館」をはじめとして、先生が読む雑誌にとりあげてもらう。教員免許更新講習への働きかけを考えてはどうか。

(埼玉県)・医学図書館に着任して、司書資

格だけでは運営が出来ないことを実感した。医学図書館協会が実施している3日間の主題知識を学ぶ講座は役に立った。学校図書館もさまざまな人が働いているのだから、同じような講座を設定してはどうか。

3. 当日配布資料

(1) JLA 総会議案書

(a) 2008 年度 (学校図書館部会) 事業報告案

(b) 2008 年度 (学校図書館部会) 会計 (決算・監査) 報告案

(c) 2008 年度 JLA 会計決算・2009 年度 JLA 予算

(2) 2009 年度 (学校図書館部会) 事業計画

(3) 部会からの諸報告の概要

(4) 常務理事会報告より (図書館雑誌)

(5) 学校図書館に関する諸問題への対応のために (部会報 No.30)

(6) 各教育委員会への『学校図書館充実についてのお願ひ』の文書

(7) 2008 年度 37 回夏季研究集会会計報告

(8) 夏季研究集会概要案

(9) 幹事の補充選任候補一覧



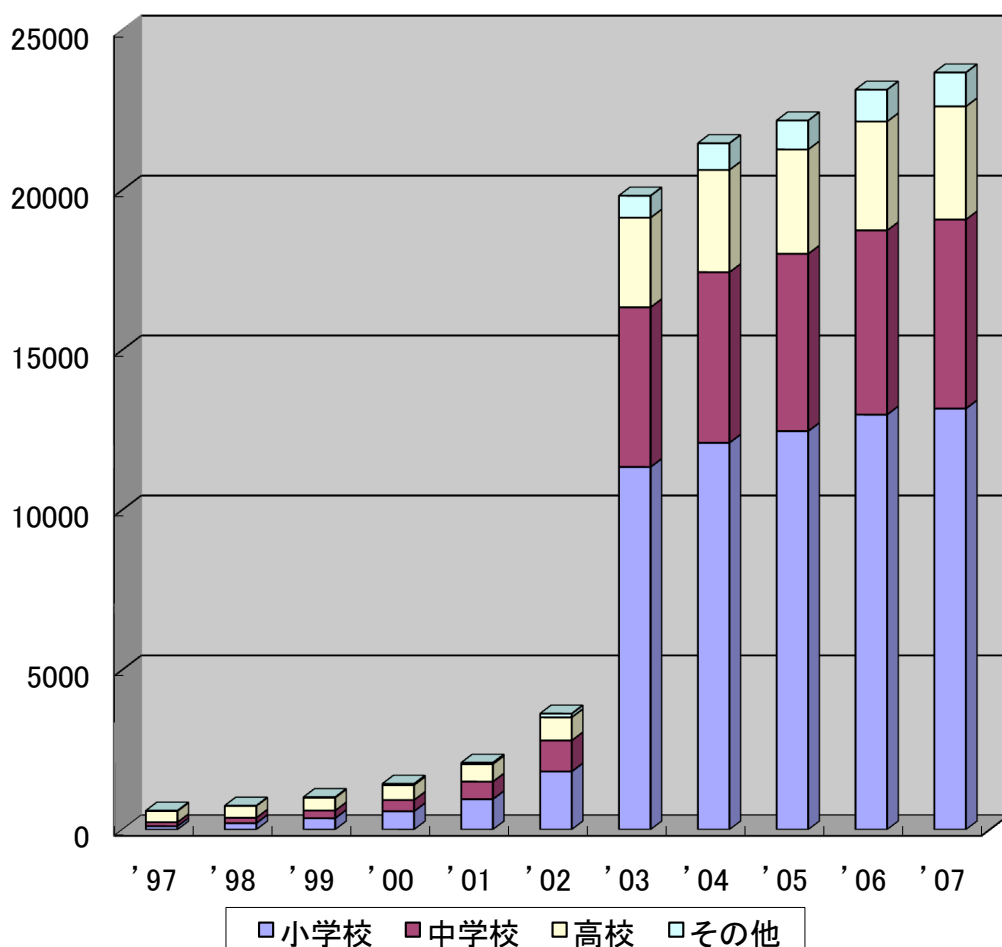
カット：穂積絵理子

4. 会員の広場

「学校基本調査」に見る司書教諭発令数の変化について

	小学校	中学校	高校	その他
'97	106	125	350	12
'98	202	169	369	8
'99	356	241	401	18
'00	571	354	468	39
'01	950	550	548	44
'02	1816	971	723	117
'03	11336	4994	2801	688
'04	12092	5334	3198	835
'05	12458	5545	3261	907
'06	12974	5760	3404	996
'07	13163	5911	3536	1061

「学校基本調査」に見る司書教諭発令数の変化



「学校基本調査」に見る学校図書館事務員等(学校司書)の配置数の変化について

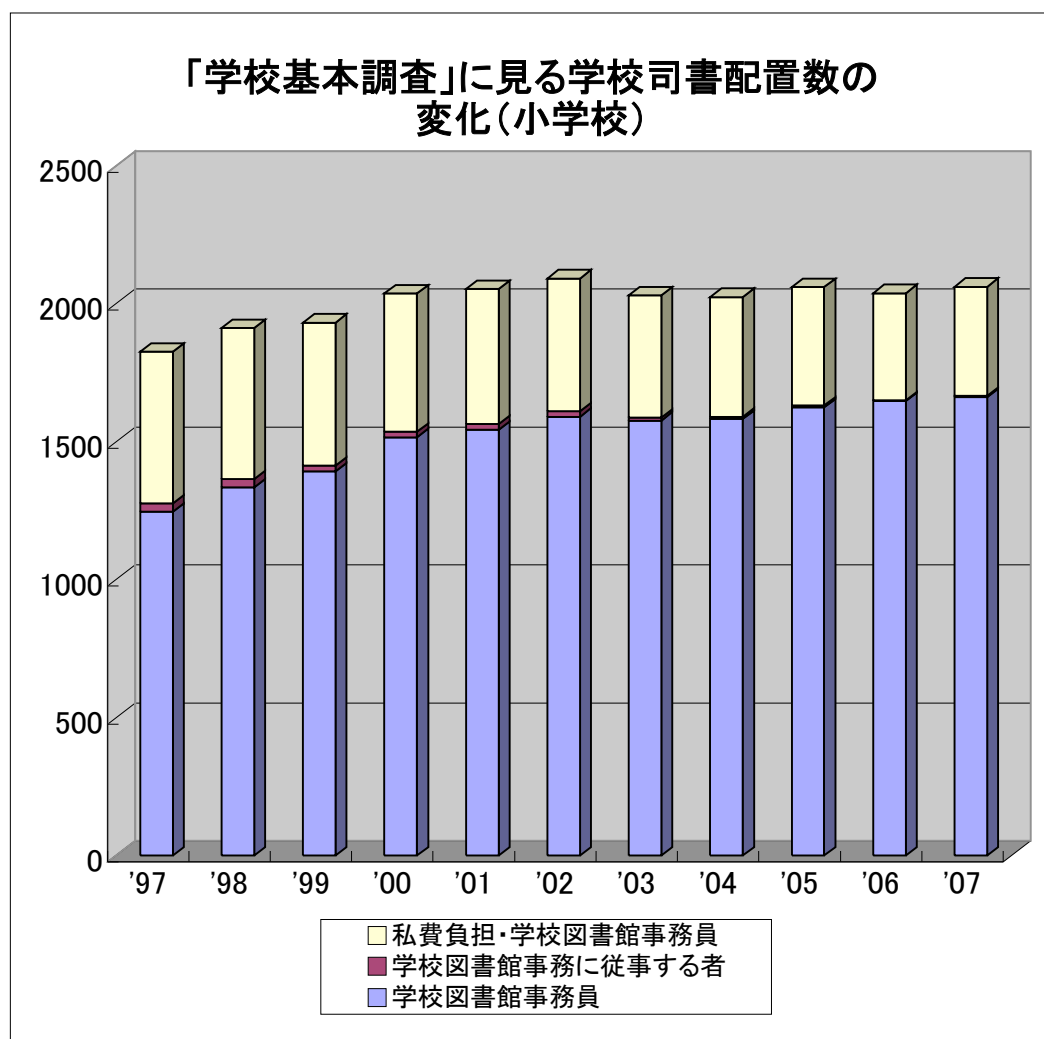
		小学校				中学校				高校					合計
		学校図書館事務員	学図事務に従事する者	私費負担の学図事務員	合計	学校図書館事務員	学図事務に従事する者	私費負担の学図事務員	合計	学校図書館事務員	学図事務に従事する者	通信制・学図事務員	中等学校・学図事務員	市町村立学校・学図事務員	
1997.5.1 (平成9年度)	国立	3	0	17	20	2	0	9	11	-	-	-	-		0
	公立	1227	30	533	1790	707	27	269	1003	1024	1284	0	-		2308
	私立	16	0	-	16	131	0	-	131	-	-	0	-		0
	合計	1246	30	550	1826	840	27	278	1145	1024	1284	0	-	18	2326
1998.5.1 (平成10年度)	国立	3	0	17	20	1	0	9	10	-	-	-	-		0
	公立	1315	30	531	1876	731	26	270	1027	1035	1254	1	-		2290
	私立	16	0	-	16	133	0	-	133	-	-	0	-		0
	合計	1334	30	548	1912	865	26	279	1170	1035	1254	1	-	18	2308
1999.5.1 (平成11年度)	国立	4	0	18	22	2	0	8	10	-	-	-	-		0
	公立	1371	21	501	1893	739	23	260	1022	1029	1260	1	-		2290
	私立	17	0	-	17	136	0	-	136	-	-	0	-		0
	合計	1392	21	519	1932	877	23	268	1168	1029	1260	1	-	20	2310
2000.5.1 (平成12年度)	国立	4	0	15	19	3	0	5	8	-	-	-	2		2
	公立	1495	20	486	2001	790	20	250	1060	1030	1243	1	0		2274
	私立	18	0	-	18	133	0	-	133	-	-	1	0		1
	合計	1517	20	501	2038	926	20	255	1201	1030	1243	2	2	24	2301
2001.5.1 (平成13年度)	国立	8	0	5	13	5	0	3	8	-	-	-	2		2
	公立	1519	22	483	2024	796	23	245	1064	1030	1206	0	0		2236
	私立	16	0	-	16	130	0	-	130	-	-	1	0		1
	合計	1543	22	488	2053	931	23	248	1202	1030	1206	1	2	25	2264
2002.5.1 (平成14年度)	国立	6	0	2	8	5	0	2	7	-	-	-	2		2
	公立	1569	20	479	2068	831	20	250	1101	971	1235	0	0		2206
	私立	16	0	-	16	125	0	-	125	-	-	1	0		1
	合計	1591	20	481	2092	961	20	252	1233	971	1235	1	2	23	2232
2003.5.1 (平成15年度)	国立	6	0	2	8	5	0	1	6	-	-	-	2		2
	公立	1556	10	442	2008	823	18	231	1072	926	1230	1	0		2157
	私立	15	0	-	15	110	0	-	110	-	-	1	2		3
	合計	1577	10	444	2031	938	18	232	1188	926	1230	2	4	21	2183
2004.5.1 (平成16年度)	国立	6	0	1	7	6	0	1	7	-	-	-	2		2
	公立	1556	9	433	1998	840	13	227	1080	889	1201	1	0		2091
	私立	20	0	-	20	111	0	-	111	-	-	1	0		1
	合計	1582	9	434	2025	957	13	228	1198	889	1201	2	2	20	2114
2005.5.1 (平成17年度)	国立	5	0	1	6	3	0	0	3	-	-	-	-		2
	公立	1599	7	429	2035	813	16	218	1047	863	1159	1	0		2023
	私立	20	0	-	20	102	0	-	102	-	-	1	0		1
	合計	1624	7	430	2061	918	16	218	1152	863	1159	2	2	19	2045
2006.5.1 (平成18年度)	国立	5	0	1	6	3	0	0	3	-	-	-	2		2
	公立	1621	4	387	2012	845	14	190	1049	855	1145	2	0		2002
	私立	21	0	-	21	100	0	-	100	-	-	1	1		2
	合計	1647	4	388	2039	948	14	190	1152	855	1145	3	3	22	2028
2007.5.1 (平成19年度)	国立	5	0	1	6	5	0	0	5	-	-	-	2		2
	公立	1633	5	395	2033	833	15	194	1042	848	1101	0	0		1949
	私立	23	0	-	23	97	0	-	97	-	-	1	2		3
	合計	1661	5	396	2062	935	15	194	1144	848	1101	1	4	25	1979

*データを見る上での留意点

- ① すべて辞令面による本務者の数であるということ。
- ② 日々雇用の非常勤職員でも臨時に雇用されている者と区別できる常勤的非常勤職員は含めるとのこと。
(=臨時職員や常勤的でない非常勤職員は含めない)
- ③ 「学校図書館事務員」とは「学校図書館専任の職員」のことを指す。
- ④ 項目によっては、国立、公立、私立等のすべてを調査対象にしている訳ではないこと。
- ⑤ 高校図書館で多数働いている、実習教員(実習助手)身分の学校司書は数値として表れてこないこと。

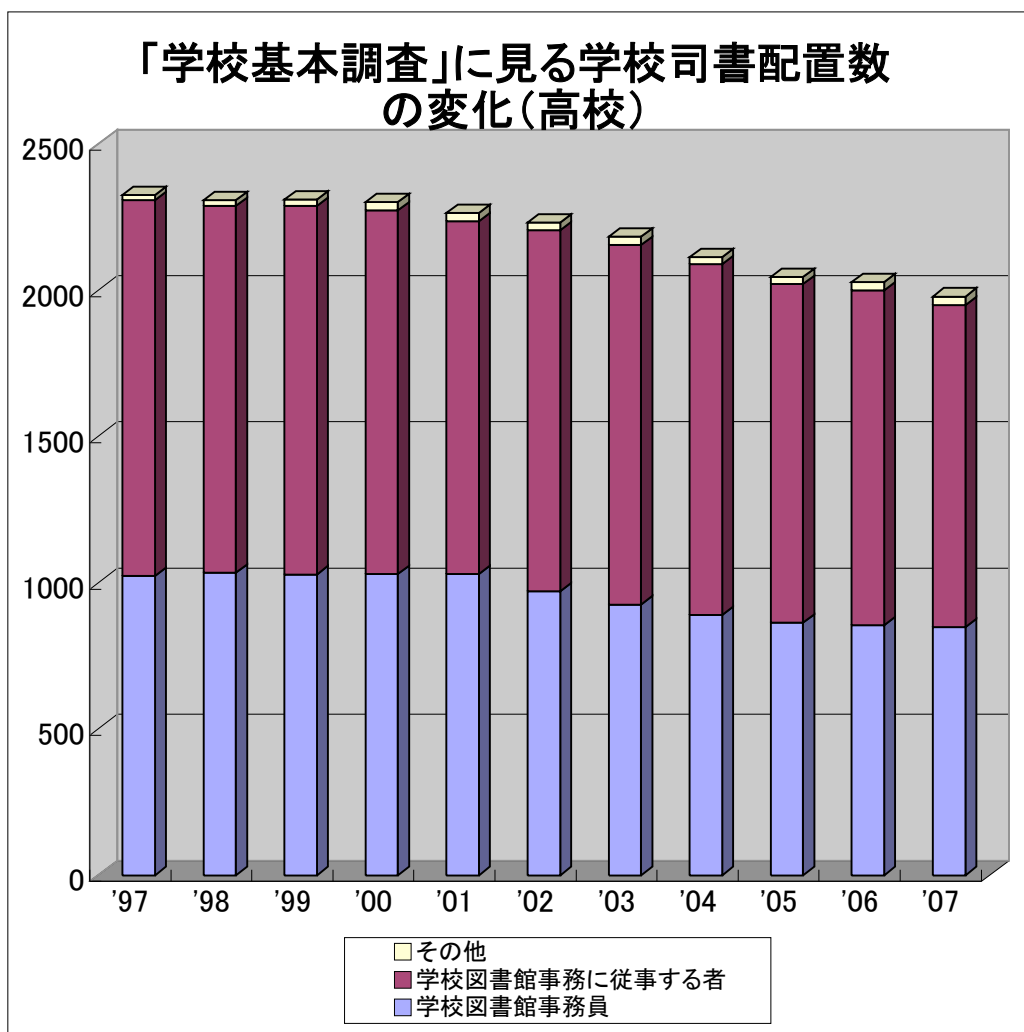
「学校基本調査」に見る学校図書館事務員等(学校司書)の配置数の変化について(小学校)

	小学校			
	学校図書館事務員	学校図書館事務に従事する者	私費負担・学校図書館事務員	合計
'97	1246	30	550	1826
'98	1334	30	548	1912
'99	1392	21	519	1932
'00	1517	20	501	2038
'01	1543	22	488	2053
'02	1591	20	481	2092
'03	1577	10	444	2031
'04	1582	9	434	2025
'05	1624	7	430	2061
'06	1647	4	388	2039
'07	1661	5	396	2062



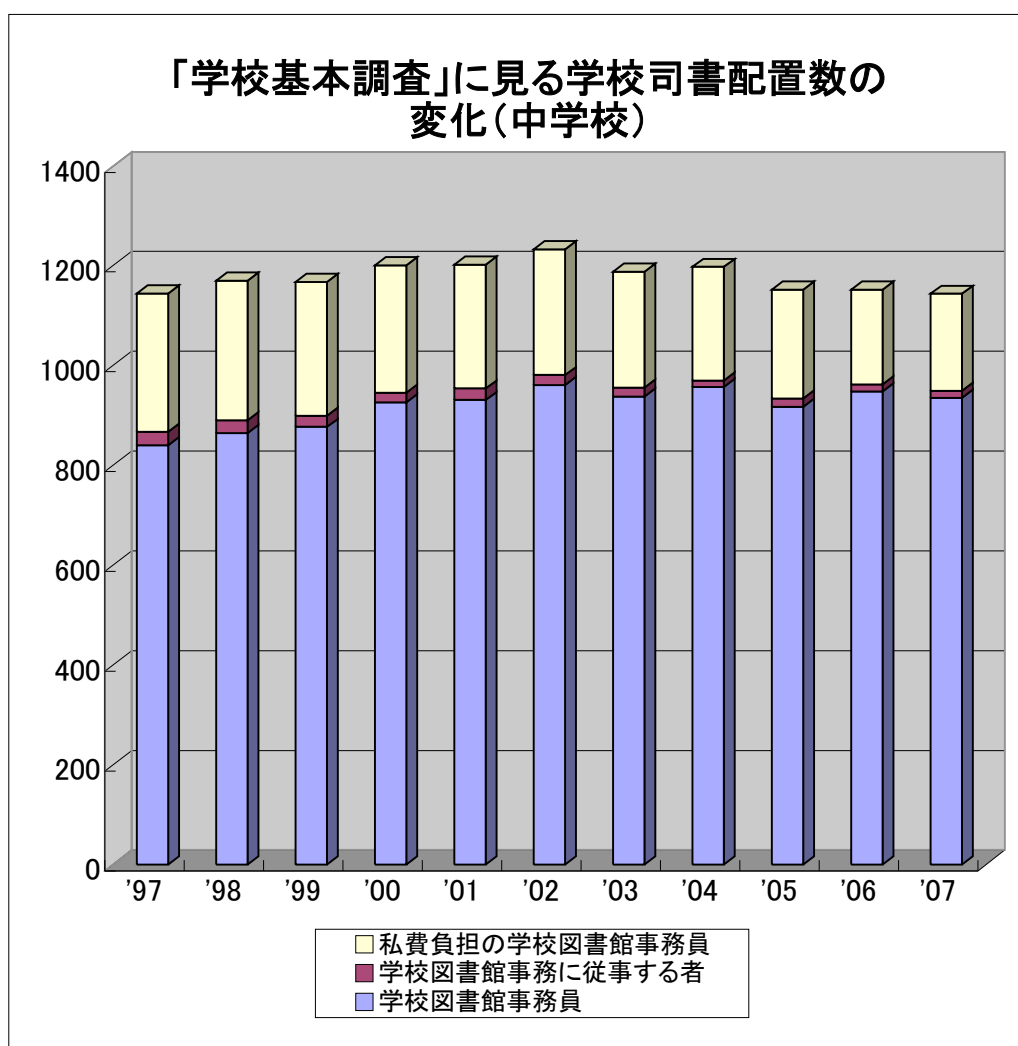
「学校基本調査」に見る学校図書館事務員等(学校司書)の配置数の変化について(高校)

	高校			
	学校図書館事務員	学校図書館事務に従事する者	その他	合計
'97	1024	1284	18	2326
'98	1035	1254	19	2308
'99	1029	1260	21	2310
'00	1030	1243	28	2301
'01	1030	1206	28	2264
'02	971	1235	26	2232
'03	926	1230	27	2183
'04	889	1201	24	2114
'05	863	1159	23	2045
'06	855	1145	28	2028
'07	848	1101	30	1979



「学校基本調査」に見る学校図書館事務員等(学校司書)の配置数の変化について(中学校)

	中学校			合計
	学校図書館事務員	学校図書館事務に従事する者	私費負担の学校図書館事務員	
'97	840	27	278	1145
'98	865	26	279	1170
'99	877	23	268	1168
'00	926	20	255	1201
'01	931	23	248	1202
'02	961	20	252	1233
'03	938	18	232	1188
'04	957	13	228	1198
'05	918	16	218	1152
'06	948	14	190	1152
'07	935	15	194	1144



	小学校	
	常勤職員	非常勤職員
2005年度	1642	5561
2006年度	1613	6036
2007年度	1615	6637
2008年度	1580	7081

	中学校	
	常勤職員	非常勤職員
2005年度	1166	2660
2006年度	1191	2921
2007年度	1197	3212
2008年度	1190	3325

	高校	
	常勤職員	非常勤職員
2005年度	3505	826
2006年度	3504	733
2007年度	3374	718
2008年度	3371	599

